

空 気澄み

人 つながり

志 高く

未 来を拓く

朝 日町

第5次

朝日町総合発展計画



ともに未来を 切り拓く

朝日町長 鈴木 浩幸



ふるさとは心の支え、人々の笑顔は心の宝であります。そんな大好きな私たちのふるさと「朝日町」を、私たちは、私たちの子・孫に自信と誇りをもって伝えていかなければなりません。「何とかしなければ」と思う気持ちが一人ひとりに芽生え、一人ひとりが前向きな気持ちでまちづくりにかかり、知恵を出し、汗を流した時、それはわが子を思う親のように、町を愛し、ふるさとを愛する気持ちとなります。そして、その後ろ姿を見て育った子どもたちも必ず、町を思い、ふるさとを愛する大人となります。

「いつの時代も自信と誇りを持ち、住みたい、住み続けたい魅力ある朝日町」をめざして、企画委員の先生方、さらに策定委員としてご意見をいただいた多くの町民の皆さんの協力によって「第5次朝日町総合発展計画」が策定されました。この計画がみんなの手により作り上げられた計画だということ。このことが、これからこの計画を実施していく上で、最も意義のあることの一つとなると思います。皆さん、この目標の実現に向かって、「高い志」と「信頼の絆」をもって、私たちの子・孫のため一緒に朝日町の未来を切り拓いてまいりましょう。

朝日町の魅力づくり

東北芸術工科大学教授

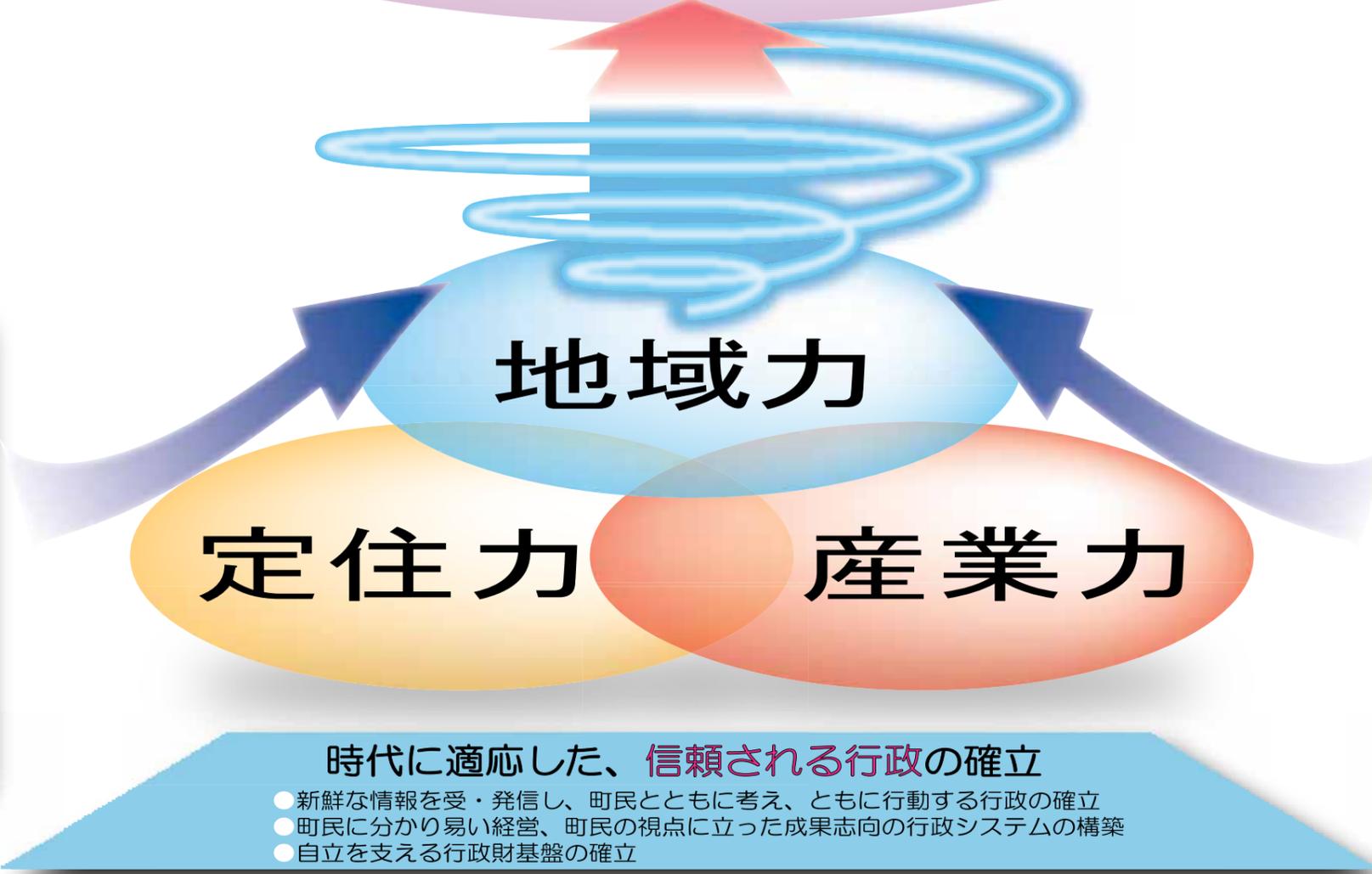
第5次朝日町総合発展計画 企画委員会座長 高野 公男



私は、海外から知人が来ると朝日町を案内します。朝日連峰を背にし、最上川が貫流する朝日町は、美しい自然や歴史、文化など、東北日本の中山間地域の魅力が多く残されている素敵なところだからです。おいしい食べ物もあります。この間は、産業祭りで「土かぶりの里芋」などを買って帰り、みんなで料理して食べて、大変好評でした。朝日町には、有名なリンゴやワインのほかにも、おいしい食材や地域の物産が沢山あるようです。

これからの時代は、観光と交流の時代だといわれています。内外の多くの人たちが朝日町を訪れ、地域の人たちとの交流が広がり、深まっていくことは、まちに賑わいを創り出し、産業面でもまちを元気にしている基礎となります。魅力づくりには、住民一人一人の創意工夫と、いろいろな人たちとの連携が必要です。人のつながりを密にし、お互いに信頼しあい、自信を持ってまちづくりに取り組んでください。未来を託す子どもたちのためにも、ふるさと朝日町の魅力をみんなで掘り起こし、さらに磨きをかけて全国に発信していきましょう。

**空気澄み 人つながり 志高く
未来を拓く朝日町**
いつの時代も自信と誇りを持ち
住みたい、ずっと住み続けたい
魅力のあるまちをつくる
～ 自立した地域をつくる～



『**ともに考え、
ともに築く**』
まちをつくる
～ 人と人の
「つながり」が
あるまち～

『**交流**』による
活力のある
まちをつくる
～ 交流による新たな「価値」と
「にぎわい」の創造～

時代に適応した、信頼される行政の確立
● 新鮮な情報を受・発信し、町民とともに考え、ともに行動する行政の確立
● 町民に分かり易い経営、町民の視点に立った成果志向の行政システムの構築
● 自立を支える行政財基盤の確立

<p>定住力 安心と魅力のある 定住環境をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● みんなで支える子育て環境の整備 ～ 働いている親も安心して子育てのできるまちづくりを進める～ ● 健康で、生きがいをもって活動できる環境の整備 ～ 生涯現役で活躍できる健康な人を増やす～ ● 安全安心で、快適な環境の整備 ～ 地域ぐるみの支え合いと、生活を支える基盤をつくる～ 	<p>地域力 信頼とつながりにより 地域の力をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域を支える人材の育成 ～ 地域課題を自ら捉え、やる気と挑戦する人をつくる～ ● 郷土愛を育む活動の推進 ～ 地域に自信と誇りを持つ人を育てる～ ● 未来を担う子ども達の教育環境づくり ～ 心身のたくましい健やかな子どもをみんなで育てる～ 	<p>産業力 安定した暮らしができる 産業をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域特性を活かした農業の産地力の強化 ～ 朝日町ブランドづくりを進める～ ● まちに活力を生み出す産業の創出 ～ 多様な連携による産業集積と創造的[ものづくり]の推進～ ● 地域の宝物を活用した交流・観光の推進 ～ 地域資源や「食」の活用と、情報発信力を強化する～
--	---	---

はじめに

1 計画策定の
必要性転換・変革の時代へ
対応するまちづくりを
進める計画の策定

21世紀初頭の日本は人口減少などにより社会構造がいろんなところで変革を見せており、これまでに経験したことのない新たな課題が各分野に起きています。こうした変革に対応する新しいまちづくりの仕組みをつくり、未来を切り拓き次世代につなぐまちづくりを進めるため、本計画を策定するものです。

●人口減少社会への対応

本町は合併直後の昭和30年をピークに人口が減少してきました。特に、若年層の流出が大きな課題になっています。現在、全国的な人口減少社会に入り、将来の労働力や社会保障制度をはじめとする国全体の力の低下を憂慮する声がいろんなところから上がっています。身近なところでは子育て環境、学校教育、医療などに影響が現れています。本町においても、特に高齢化とあいまって地域コミュニティの維持に影響が出始めています。

国や県とともに、少子化・子育て政策に取り組んでいますが、一方で、こうした社会に対応する地域づくりの仕組みをつくっていく必要があります。

●高齢社会への対応

少子化と高齢化は密接に関係しており、各世代間の人口バランスが崩れることによって循環・再生が停滞し、年金や健康保険等の社会保障制度をはじめ様々な社会の仕組みに課題が生じています。特に、地方は長年にわたって若年層の流出による少子化と高齢化が進行し、家族のかたちや集落コミュニティが変質してきています。

本町も過疎と高齢化という二重の重い課題を背負いながら、持続する地域をつくるために時期を逃がさず適切な対応が求められており、高齢者がいつまでも健康で元気に暮らせる町、そして町民みんながそれぞれもっている知恵と力を発揮し、地域づくりに参加するまちづくりを進める必要があります。

●国際化の進展への対応

日本企業の海外進出や情報通信網の発展、規制緩和による外国資本の日本市場への参入など経済分野をはじめとして、文化・スポーツ、観光分野などで国際化が進み、原油や食料を輸入に頼るわが国において、外国の情勢の変化が日常生活にすぐに響いてくるほど密接になっています。

本町もりんごを台湾などへ輸出し、海外で高く評価を得ています。また、モンゴルからの留学生が訪れるなど海外との交流が進んでおり、国際的な感覚をもって経済交流や人的交流をはかっていく必要があります。

●低成長時代への対応

バブル経済崩壊後の国内の景気後退により個人消費が伸び悩み、経済成長率は1%台の低成長を続けています。

都市部と地方の格差が拡大し、好景気の実感が地域や業種に偏り、都市部への人口移動も続いています。

こうした中であっても、地域の知恵と工夫により、地域資源を活かした商品づくりや交流・観光などで大きな成果を挙げている小さな地方の町もあります。本町においてもこうした取り組みにならない、英知を集め、工夫し、元気なまちづくりを進めていく必要があります。

●環境制約への対応

世界規模の地球温暖化問題により省エネや資源のリサイクルなど私たちが生活するうえで環境に対して配慮し実行することが、次世代に安全で安心な環境や資源を残すという意識が高まっています。21世紀は環境の時代といわれており、積極的な取り組みが求められています。

●地方分権型社会への対応

これまでは国主導による画一的な地域づくりが進められてきました。つまり、地方は中央で決めた大きな規格に沿って流れてくる財源や情報によって地域づくりを進めてきました。しかし、地域によって課題は異なり、画一的な政策では地域の真のニーズに 대응することができず、地域課題に根ざした極め細かな政策が必要となっています。このため、「住民に近いところで行われる決定ほど望ましい」というニア・イズ・ベターの原理に立ち戻り、本来の自治の姿をつくるという、地方分権型社会への移行が求められています。そうした中では住民に最も近い自治体として、市町村の役割が特に重要になります。それは、一方で地方が特色のある個性的な地域づくりを行うことが求められるということでもあり、また市町村間で特色のある個性的な地域をいかにつくりあげるかの競争の時代でもあります。地域がこうした競争の中で活性化し、またないものを補完する共生の時代でもあり、本町においても、もっている強みを最大限に活かし地域色豊かな特徴のあるまちづくりを進める必要があります。

2 計画の性格

この計画は、町の将来の姿を展望し、どのようなまちづくりをめざすのか、新しいまちづくりの目標を定め、その実現をめざして展開する政策・施策の方向を明らかにするものであり、町政を進めるうえでの基本指針となるものです。



3 計画の構成

本計画は「基本構想」「基本計画」で構成し、今後この計画を具体化するための実施計画を策定します。

基本構想

基本構想は、町の将来の姿を展望し、どのようなまちづくりをめざすのか、新しいまちづくりの目標を明らかにし、その実現のために町民と行政が一体となって取り組むまちづくりの基本方向を示すものです。

計画の構成

基本計画

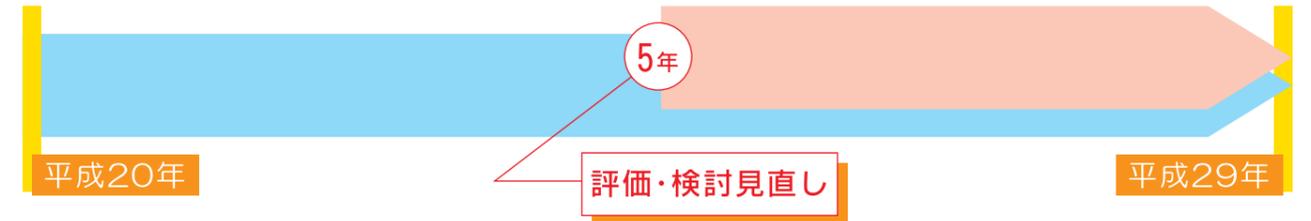
基本計画は、基本構想で示すまちづくりの目標を実現するために重点的に進める施策(プロジェクト)を明らかにしたものです。

実施計画

基本計画で示した主要施策を具体化するものであり、毎年度の予算編成のための指針となるものです。

4 計画の期間

基本構想と基本計画は、平成20年度を初年度とし、平成29年度を目標年次とする10ヵ年計画とします。ただし、基本計画は5年をめぐりに社会情勢の変化などを踏まえ、評価・検討を行い、必要に応じ見直しを行います。実施計画は、3ヵ年のローリング方式とします。



5 計画の進行管理

重点的に進める施策(プロジェクト)ごとに町民と共有・共感できる具体的な目標(原則数値目標)を設定し、その達成度、成果について評価検証し、事業内容を見直し、改善します。



計画の基本目標と将来の姿

現代は、情報技術の革新など次々と新しいものが生み出され、社会経済は目まぐるしく変化し、時代は発展を遂げています。そうした中であっても、いつまでも伝えていかなければならないものがあります。先人が築きあげてきた伝統文化や最上川の河岸段丘に広がる田園、りんごやワイン、そして木工技術などの農産物を含めたものづくりの文化、そして守り続けてきた大朝日岳に象徴される朝日連峰や最上川五百川峡谷などの秀麗な自然環境、そして忘れてならないのが一人ひとりに受け継がれてきた知恵と心、朝日町にしかない宝ものです。これらの宝が私たちの郷土に対する自信と誇りの源となるものです。

しかし、今、時代が大きな変革・転換に直面し、私たちを巡る社会が大きく変動する中で、都市と地方の格差などから地方が活力、自信を失いかけています。私たちも朝日町のもつ誇り・価値を見失いかけてはいないでしょうか。私たちは今一度朝日町のもつ宝を再確認し、郷土に対する誇りを再認識する。そして、この宝を活かし特色のある個性的な地域をつくりあげることが「ここが朝日町、これが朝日町」と呼べる世界にひとつだけの朝日町をつくることとなります。

過去から伝えられてきたものをそのまま未来へつなぐだけではなく、現在の知恵を活かし、将来にわたり、自分たちがずっと住みたいまちをつくる。それが町外からも評価され、住みたいと思われる魅力のあるまちとなります。先人たちが続けてきたように、今を生きる私たちも、知恵を結集し、世界にひとつしかない朝日町づくりを進め、次代へ引き継いでいくことが、私たちの責務です。

そして、いつの時代にも住む人が自信をもち、地域に誇りをもって、自らの手で魅力のある地域をつくり続けることが自立した地域をつくることとなります。

こうしたまちづくりを進め、「空気」に代表される環境、人と人のつながりを大切にし、一人ひとりの高い志により、未来を切り拓き、産業そして地域を発展させていく朝日町を築き上げていきます。

●基本目標

いつの時代も自信と誇りを持ち、
住みたい、ずっと住みたい、
魅力のあるまちをつくる



自立した
地域を
つくる

●将来の姿

空 気 澄 み 人 つ な が り
志 高 く 未 来 を 拓 く
朝 日 町

II



計画を実現するための 地域づくりの2つの理念

理念 1 ともに考え、 ともに築くまちをつくる

地域をつくる原動力は地域に住む人々の知恵とやる気、そしてそれを支える行政と地域との信頼関係です。

人口減少社会、高齢社会をいち早く迎えた朝日町は、地域づくりの主役である地域住民の減少、高齢化により地域の主役の力が低下してきていることは否めません。これを補っていくためには、一人ひとりが持っている知恵、技術を出し合い、結集することが必要です。また、一人ひとりが互いを信頼しあうことが真の絆「つながり」を生み、地域の持つ力を十二分に発揮できることとなります。

一方、従来、行政が主導し、地域づくりを進めてきました。このため、地域の持つ力を十分に活かしきれていたとはいえません。また、地域の力が主役となることにより、真に地域に根差した地域づくりができます。情報や専門的な知識等行政が持っている力を活かし、地域とともに考え、行動することが、信頼関係を生みます。この地域との信頼関係を築

人と人の

「つながり」があるまち

き、地域との役割分担と連携のもと地域づくりを進めること(=協働)が、今後の地域経営にとって最も重要です。

つまり、地域の人と人、地域と行政の真の「つながり」(相互信頼のよとの絆)のもと、ともに考え、ともに築くまちづくりを進めます。

理念 2 「交流」による活力のある まちをつくる

朝日町では、第3次、第4次の総合計画で「エコミュージアム」をまちづくりの基本理念に掲げ、一人ひとりの学び(生涯学習)を通し地域づくりを進めてきました。他の市町村等においては、外発的な力への依存した地域づくりを進めようとしているところが主流であった中で、朝日町はエコミュージアムを掲げ地域の資源を見直し、地域資源を活かした地域づくりをめざしてきました。今、全国各地域が競って地域資源を活用し、特色のある地域づくりをめざしており、当町の試みは全国に先駆けた取り組みでありました。

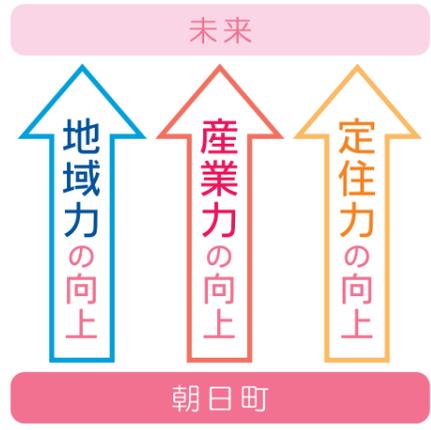
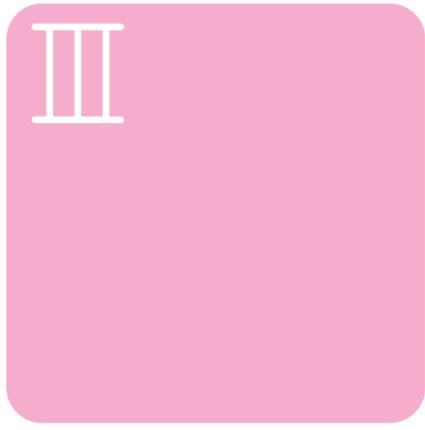
今後、活気のある元気な地域づくりを進めるためには、これまでのエコミュージアムによる内発的な地域づくりを一步進め、交流により外の知恵や技術などを活かし、新たな発展を探求することが必要です。

「外の目」を通し見ることで内からの目では気づかない地域の良さの再発見があります。また、外の知恵や技術と交わることにより新たな創造もあります。さらに、地域だけの力ではできないことも可能となります。そして、交流により人が集まりにぎわいが生まれ、地域が元気になります。

今後は、エコミュージアムで築きあげてきた内発的な力を活かし、交流という新たな力を地域づくりや経済力の強化に活かし、どこにもない朝日町づくりをめざしていきます。

交流による新たな

「価値」と「にぎわい」の創造



計画を実現するための3つの柱

この計画を実現するため、地域力、産業力、定住力それぞれの力を向上させるとともに、これらの力の相乗効果により総合的な力を高め、町を発展させる力としていきます。

1. 地域力の向上

信頼とつながりにより**地域**の力をつくる

地域づくりの原動力は、地域に住む人々の知恵・技術と地域への熱い想いです。先に記述しましたが、朝日町は人口減少社会、高齢社会をいち早く迎え、こうした地域を支える人材の不足が懸念され、また地域を維持することが難しくなりつつある区も出てきています。

こうした中であって、地域を維持発展させていくためには、地域を支える人材や地域づくりのリーダーをこれまで以上に力を入れ育成していくとともに、地域づくりの母体となるコミュニティを維持強化していくことが重要です。

また、現在は、地域づくりの主体は、区などの地縁団体だけではなく、NPOやボランティアグループなど多様化しており、こうした多様な団体を育成強化し、連携していくことが重要となっています。

しかし、区の置かれている状況は地域により大きな差異が生まれてきています。まだまだ区主体で維持できる区、区主体では維持が難しくなりつつある区など置か

れている状況は大きく異なってきています。基本は、地域主体の地域づくりですが、区と行政の関わりも区によって当面は異なる対応が必要となっています。

しかし、将来を見据え、コミュニティのあり方について、地域と行政が一体となり検討することが必要な時期にもきています。

地域づくりへの「志」を高めていくためには、地域に対する愛着心を高めていくことが重要です。それは、子どものころから地域の良さを知り、地域に対する誇りと自信を持つことから始まります。しかし、朝日町だけではありませんが、多くの地域で経済の低迷により地域の将来が展望できず、地域に対する自信と誇りを失いかけています。前述しましたが、朝日町にはたくさんの魅力があります。

それを町民あげて再認識し、自信と誇りを持ち、新たな地域づくりへの志を高めていくことが重要となっています。

少子化や社会環境の変化により子どもたちを巡る環境は大きく変化しています。次代を担う子どもたちを育てていくことは、大人の責務です。一人ひとりの個性を伸ばし、少子化の中にあってもたくましい子どもを育てていく必要があります。

こうした視点から**地域力**を高めるため、次の3つの基本方針を掲げ、政策・施策を展開します。

- | | | |
|-----------------------------|-------------------------|-------------------------------|
| 1 | 2 | 3 |
| 地域を支える
人材の育成 | 郷土愛を育む活動の
推進 | 未来を担う子ども達の
教育環境づくり |
| 地域課題を自ら捉え、
やる気と挑戦する人をつくる | 地域に自信と誇りを
持つ人を育てる | 心身のたくましい健やかな
子どもをみんなで育てる |

2. 産業力の向上

安定した暮らしができる**産業**をつくる

経済の国際化の進展、情報技術に代表される技術革新などにより地域経済を取り巻く環境は大きく変化し、農産物価格の低迷や企業の撤退などにより、本町の農業生産額、製造品出荷額などは低迷しています。

一方、人口減少や高齢化により農業のみならず小売業などにおいても後継者不足が大きな問題となっており、さらに製造業においても町内からの労働力の確保が課題となっています。

こうした中で地域の持続的な発展のためには、自立した地域産業の確立が不可欠です。

このためにはまず、既存産業の維持発展が重要です。朝日町には、りんごづくりやワイン醸造、木工技術など誇れるものづくり文化があります。こうした伝統を活かし、企業間の連携はもとより、産業間の垣根を越えた連携を図り、新たな製品開発や生産から販売までの連携を進めることが重要です。また、消費者ニーズは多様化しており、消費者の視点を大切にした生産技術の向上やマーケティングを行い、ものづくりを進めることが重要です。

元気のある町にしていくためには、新しい動きが起きることが必要です。産業においても新規創業や新分野進出が重要です。朝日町にはものづくりの伝統があり、これまでも食品加工分野などでは、農業者の新たな挑戦や異業種からの進出があります。こうした小さな企業の創業などによる「小さな経済」を町内へ広め、元気で活力のあるまちをめざしていきます。

また、今後の朝日町の経済的な発展のための重要な視点が交流です。多くの自治体で交流・観光に力を入れています。そうした中で朝日町に多くの人々を呼び込むためには、朝日町ならではの「もてなし」や地域にある様々な資源の活用が重要です。朝日連峰や最上川などの秀麗な自然環境や先人が築いてきた伝統文化など光り輝く資源がたくさんあり、こうした資源を活かしながら、人と人のつながりを大切に「もてなしの交流」を進めることが重要です。もてなしの心を大切に「食」や農業体験・自然体験など人とのふれあいを大切に地域づくりが、大きな交流の資源となります。そして、交流・観光は農業、製造業、商業など全ての産業が連携することにより大きな力となる産業でもあり、産業間の連携が重要です。

そして、朝日町を元気にしていくためには、外への情報発信が重要です。これら産業の成果を「朝日町ブランド」に集大成し、朝日町を全国に情報発信していきます。

こうした視点から**産業力**を高めるため、次の3つの基本方針を掲げ、政策・施策を展開します。

1	2	3
地域特性を活かした農業の産地力の強化	まちに活力を生み出す産業の創出	地域の宝物を活用した交流・観光の推進
朝日町ブランドづくりを進める	多様な連携による産業集積と創作的「ものづくり」の推進	地域資源や「食」の活用と情報発信力を強化する

3. 定住力の向上

安心と魅力のある**定住**環境をつくる

朝日町では人口減少が最大の課題です。人口減少の最大の要因が子育て世代の町外への流出です。町の持続的な発展のためには、次世代を担う人材の流出に歯止めをかけるとともに、こうした世代の町外からの転入を促進することが重要です。このため、次世代を担う若い人たちが希望をもって暮らし、子育てができる環境をつくることを進めます。

一方、朝日町は山形県内トップクラスの高齢化率です。こうした本格的高齢社会を迎え、生涯安心して暮らせる社会をつくることが重要です。生涯現役で生活できるような平日頃の健康維持の仕組みづくりや、町立病院を核とした医療体制の充実、さらに医療と介護の連携を進め、安心して暮らせる環境の整備を進めます。

また、精神的な「つながりと支えあい」により人情味のある楽しい地域コミュニティをつくり、地域での見守りを進めるとともに、生きがいのある生活ができるようにしていきます。

自然的、地理的条件によって生ずる生活上の安全性や利便性の確保については、災害非常時の防災体制や耐震補強、さらに雪対策に取り組むなど安全で快適な生活環境づくりをめざし社会基盤の整備を進めます。

地球温暖化対策への取り組みは、我々一人ひとりの取り組みが重要となっています。わが町はエコミュージアムや空気神社など自然環境に対する意識の高い町として全国的に知られており、町民一人ひとりが責任をもって取り組むことが重要です。

こうした視点から**定住力**を高めるため、次の3つの基本方針を掲げ、政策・施策を展開します。

1	2	3
みんなで支える子育て環境の整備	健康で、生きがいをもって活動できる環境の整備	安全安心で、快適な環境の整備
働いている親も安心して子育てのできるまちづくりを進める	生涯現役で活躍できる健康な人を増やす	地域ぐるみの支え合いと、生活を支える基盤をつくる



計画を実現するための町の経営方針

この計画を実現していくためには、町民との信頼関係のもと、町職員がもっている力を活かし、地域とともに考え、行動することが重要です。

一方、景気回復の遅れによる税収の減少や国庫補助負担金、地方交付税、国と地方の税源配分の一体的な見直しを進める「三位一体の改革」が進む中で地方交付税が大きく減少し、町の財政が厳しくなっており、まちづくりを進めるためには、行財政改革は早急に解決しなければならない課題となっています。

こうした状況を踏まえ、「時代に適応した、信頼される行政」の確立をめざし、次の3つの視点を大切に、職員の意識改革、行財政運営の新しい仕組みづくりを進めます。



1 新鮮な情報を受・発信し、町民とともに考え、ともに行動する行政の確立

町づくりを進めるためには、町民と行政の信頼関係を築くことが特に大切です。このため、町民の目線に立って、地域の中に入り、地域の課題を汲み取り、そして地域とともに課題解決に向け行動することが町民の信頼を得ることにつながります。こうした行動ができるよう職員の意識改革を進めます。

そして、ともに考え、ともに行動するためには、情報を共有し、相互理解を得ることが大切であり、積極的に新鮮な情報を発信していきます。その上で、地域との役割分担と連携により、まちづくりを進めます。

2 町民に分かりやすい経営を目指し、町民の視点に立った成果志向の行政システムの構築

信頼される行政を確立していくためには、町が何をめざしているのか、どのようなことを行っているのか、その成果はどうか、町民にわかりやすく明らかにしていくことが大切です。その際、町民と共有できる目標、ことばで情報を提供していくことが重要です。このため、町民と共有できる目標を明確にするとともに、その達成のためどのようなことを実行に移していくのかわかりやすく表現するという心を心がけ、本計画を策定したところです。今後は、この計画(PLAN)を踏まえ、実行(DO)し、そして成果を評価・検証(CHECK)し、改善する(ACTION)というPDCAサイクルを確立しながら、その内容をわかりやすく明らかにしていきます。

3 自立を支える行財政基盤の確立

この計画を実現していくためには、行財政基盤を強固なものにしていく必要があります。これまでも平成16年に第3次朝日町行財政改革大綱を策定するなどし、人件費の削減、業務委託の推進、経費の削減などの行財政改革に取り組んでいます。

今後も「選択」と「集中」により効率的、効果的な行財政運営を進め、持続可能な行財政基盤を確立します。

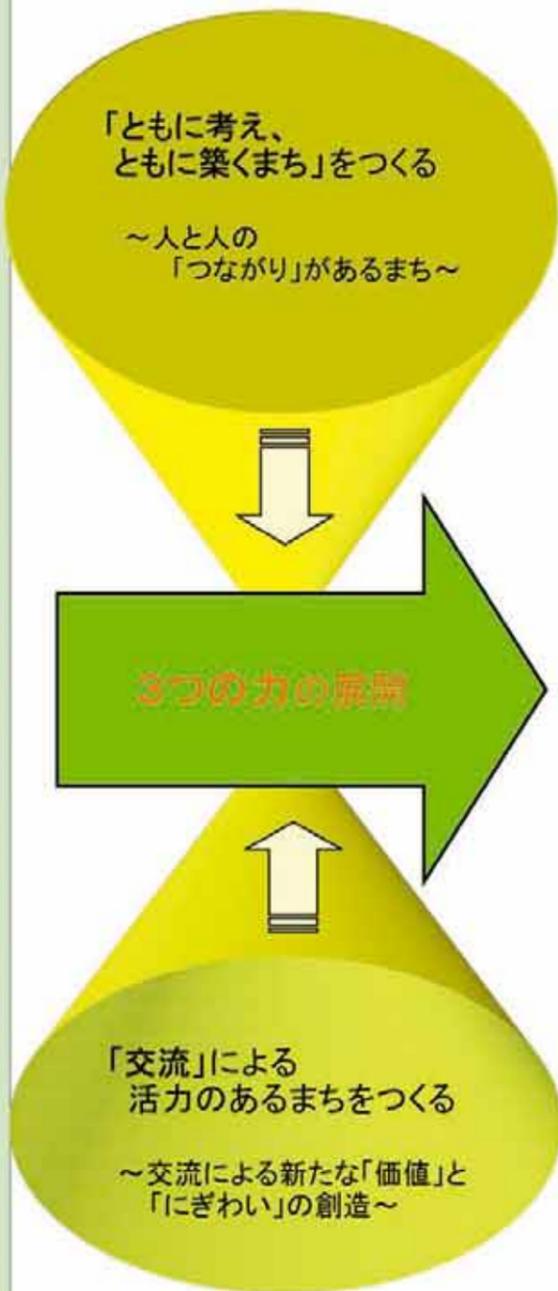
基本計画の体系

将来の姿—基本目標

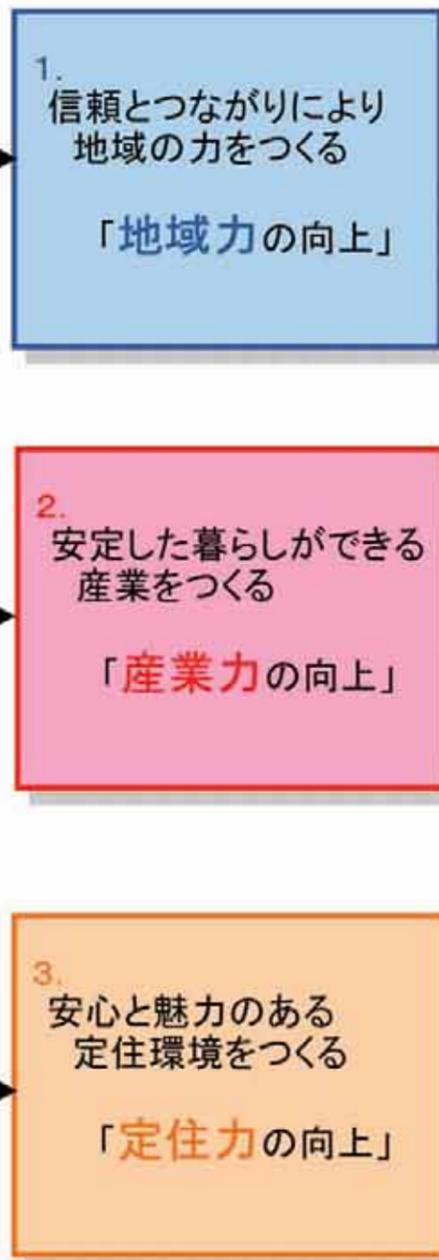
『空気澄み 人つながり 志高く 未来を拓く 朝日町』

いつの時代も自信と誇りを持ち 住みたい、ずっと住み続けたい 魅力のあるまちをつくる
 自立した地域をつくる

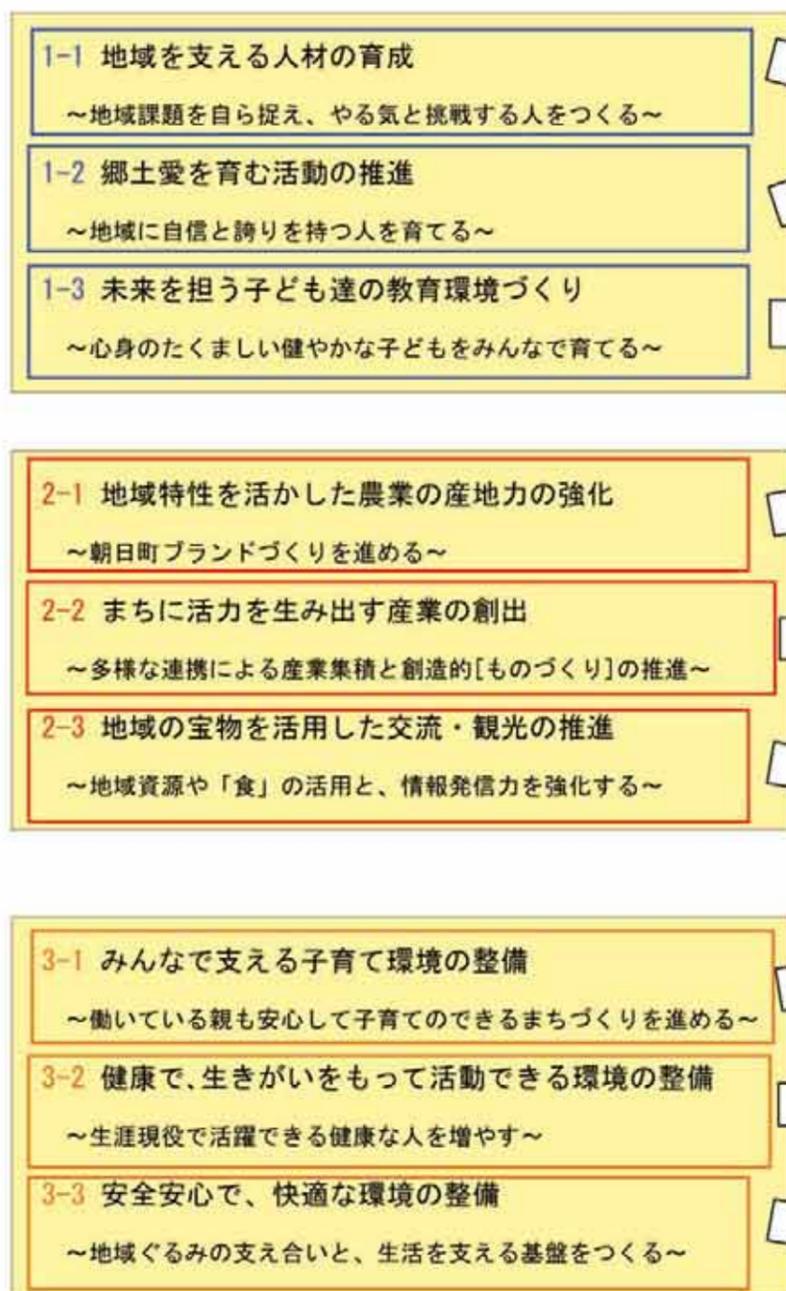
2つの理念



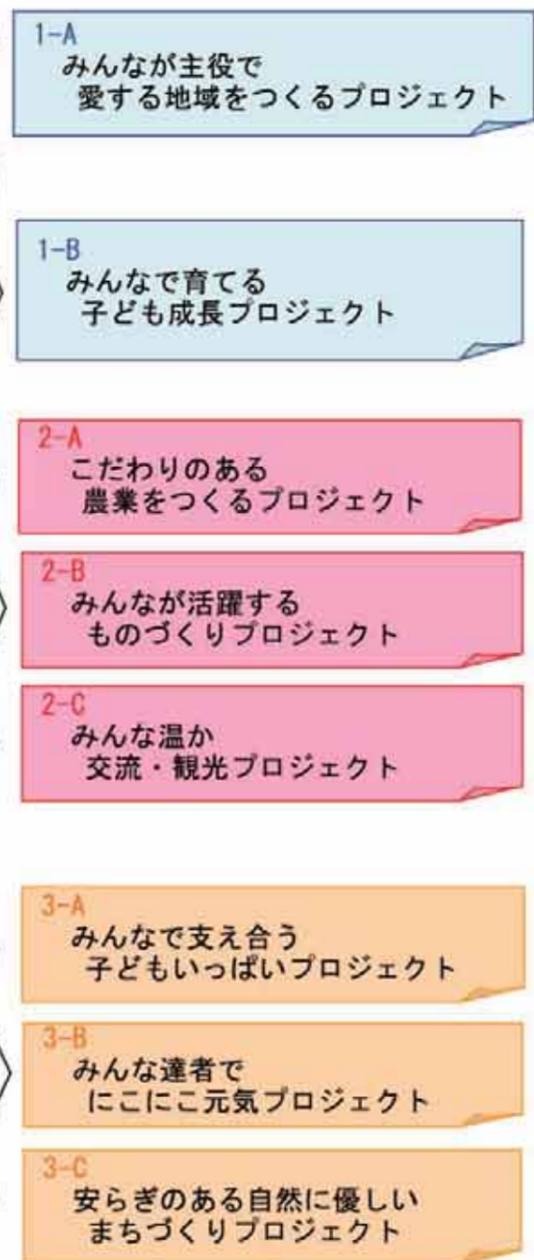
計画を実現する3つの柱



基本方針



基本計画（プロジェクト）

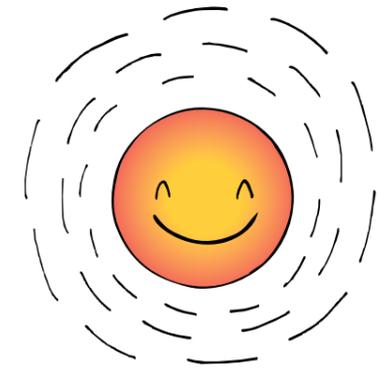


町の経営方針

時代に適応した、信頼される行政の確立

- ①新鮮な情報を受・発信し、町民とともに考え、ともに行動する行政の確立
- ②町民に分かり易い経営を目指し、町民の視点に立った成果志向の行政システムの構築
- ③自立を支える行財政基盤の確立

1-A みんなが主役で 愛する地域をつくるプロジェクト



1-B みんなで育てる 子ども成長プロジェクト

自ら未来を切り開く
たくましい朝日っ子

学校

応用力のある確かな学力を育てます

- ・将来の社会生活の基礎となる知識、技能の学びの推進
- ・身についた知識・技能を実際の場面で活用できる思考、判断、表現力の育成
- ・積極的に学習に向かう意欲や態度の育成
- ・保育園、小学校、中学校が連携した就学の支援

豊かな体験を通して自主・自立の心とたくましさ育てます

- ・自然・生活・福祉などの体験活動を通し、豊かな心と広い視野を育成
- ・朝日町版職場体験学習により、働く意義を考え、自立する心を養成
- ・様々な活動を通し、専門的な力を養い、心身共にたくましい子どもを育成

行政

- ・介助指導員
- ・外国語指導員
- ・学習指導員
- ・生活指導員

・学力向上推進事業による学力向上

・特色のある学校づくりの支援

・教育内容に合った施設や設備の整備

家庭

学校、地域社会に積極的に参加します

- ・芸術文化、スポーツ、研修会等への積極的参加
- ・PTA活動への積極的関わり
- ・子育て支援センター等による各種事業への参加

家庭の教育力を高めます

- ・基本的な生活習慣づくり（しつけ等）
- ・親子のふれあいの機会の積極的確保
- ・集団の中でより良く生活する能力の育成
- ・正しい食生活の習慣づくり

地域

地域の子どもは地域で育てます

- ・地域行事への子どもの参加促進
- ・青少年育成町民会議の活動
- ・地域スポーツを通じた子育て（体育協会、スポーツ少年団）
- ・各種体験の場づくり
- ・体験学習支援組織の育成
- ・子ども会活動への支援
- ・芸術や、地域文化を通じた子育て

子どもの安心・安全を確保します

- ・子ども見守り隊の活動
- ・スクールガードリーダーの活動
- ・青少年指導センターによる巡回パトロール

行政

安心して教育が受けられるようにします

- ・家庭教育に関する情報の積極的提供
- ・気軽に受けられる相談、カウンセリング機能
- ・奨学金制度
- ・遠距離通学への配慮
山形直行バスの運行
通学定期への助成

安心感の中で自主・自立の心と高い学力を育てる

中学校

小学校

保育園

保・小・中一貫した取り組み

トライアングルパートナーシップ

2-A こだわりのある 農業をつくるプロジェクト

収益性の高い 農業経営

朝日町
ブランド
の確立

安全安心・美味しい

園芸作物や ブランド米づくり

- ・洋種花木などの収益性の高い園芸作物の導入支援
- ・付加価値の高いこだわり米づくりへの支援

農業担い手の育成

- ・やる気ある生産者の経営を支援する提案型補助事業の活用
- ・弟子入り制度や、農地・農機具等の調達による、後継者や新規就農者が安心して就農できる支援体制づくり

日本一の 「りんご」づくり

りんご品質の向上

- ・味や着色にこだわった「無袋ふじ」りんごづくり
- ・「葉とらず」りんごの栽培技術の普及、支援
- ・生産組合毎に実施している剪定技術講習会のオープン化
- ・技術指導員の養成

りんご奨励品種 の導入・促進

- ・りんご大苗育成事業
- ・中生種への高接対策

秋陽

ファーストレディ
(山園A2)

シナスイート

りんご生産体制の整備

- ・高齢木の更新等における小規模基盤整備事業
- ・りんご荒廃放任園への取り組み

りんご生産組合間の連携

- ・栽培技術の指導、普及活動
- ・生産者や生産組合間の活発な交流事業

労働力の確保

- ・農業サポーター制度等の導入による営農支援

農産加工品の開発

- ・地場農産品にこだわった加工品の開発・製造・販売

多様な
販売

生きがい農業

- 少量多種栽培、顔の見える販売 —
- ・高齢者や、農業のおもしろさを感じたい人々が、様々な農産物を栽培したり、販売できる仕組みづくり

農業体験観光園の整備

- ・りんごパートナー制度の創設
- ・りんご、ぶどうのオーナー制
- ・果樹もぎ採り園の開設支援

交流

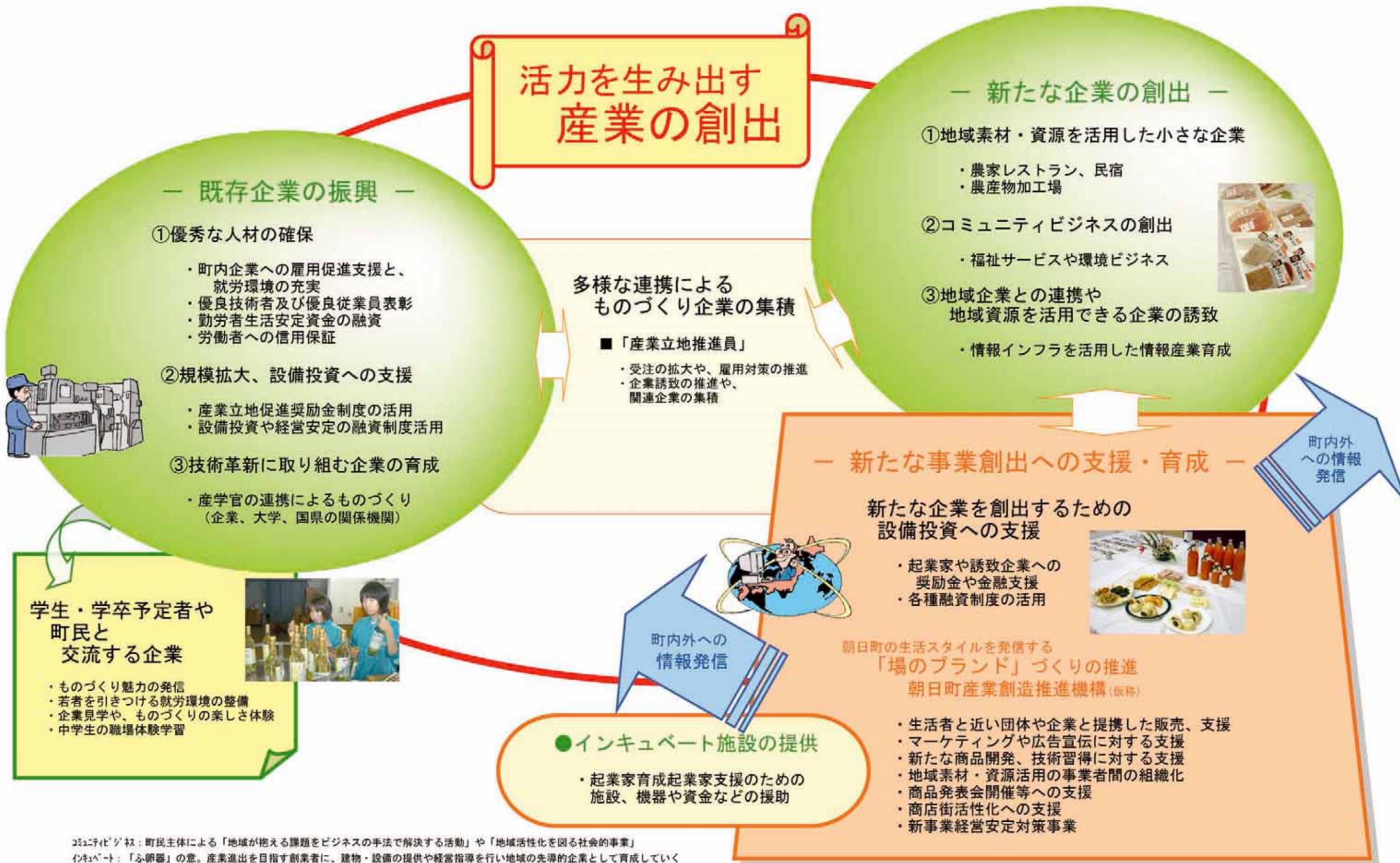
消費者

奨励品種の
統一共選

出荷体制の確立

海外への輸出

2-B みんなが活躍する ものづくりプロジェクト



コミュニティビジネス：町民主体による「地域が抱える課題をビジネスの手法で解決する活動」や「地域活性化を図る社会的事業」
 インキュベート：「ふ卵器」の意。産業進出を目指す創業者に、建物・設備の提供や経営指導を行い地域の先導的企業として育成していく

3-A みんなで支え合う 子どもいっぱいプロジェクト

子育てしやすいまち

○子育て世代や、若い人が 住みやすい住環境の整備

- ・住宅団地の整備 (再掲)
- ・町営賃貸住宅の建設 (再掲)



学校教育 (再掲)

- ～自ら未来を切り開く
たくましい朝日っ子～
- 応用力のある確かな学力を育てる
- 豊かな体験を通して
自主・自立の心とたくましさ
を育てる
- 積極的な学校経営の支援

高校期
中学校期
小学校期

— 高校期 —

- 通学にも困らない
公共交通手段の確保 (再掲)
- ・バス定期券に対する支援
- ・県都への直通バス運行
- (財)朝日町育英会の奨学金貸与 (再掲)

○地域で支える子育て環境

- ・放課後児童クラブや子ども教室の充実
- ・子育てボランティア組織の育成
- 地域の先生、ファミリーサポート協力員、
託児ボランティア、読み聞かせ会、
中高生ボランティア「きらり・JOKER」

○交流、遊び場の整備

- ・地域交流広場の開設

○地域における見守り活動

- ・児童の健全育成



○親子の学び・ふれ合い支援

- ・子育て図書コーナー
- ・ブックスタート事業
- ・家庭教育学級



乳児期

妊娠
出産期

○妊婦さんの 健康管理や 出産・育児の相談

- ・妊婦健診(無料健診5回)
- ・マタニティー相談

○親としての自覚確立支援

- ・パパ・ママ学級

○乳幼児の 成長・発育の健診や相談

- ・あさひっこ健診
- ・すくすく健診
- ・もぐもぐ赤ちゃん健康相談
- ・育児講座

幼児期



○子育てに係る 経済的負担の軽減

- ・就学前の医療費完全無料化
- ・3歳以上第2子以降の保育料定額化
- ・フッ素塗布の自己負担無料化
- ・18歳未満までの
インフルエンザ予防接種補助

子育て支援拠点施設

～ 保育園機能と、子育て支援センターの複合施設 ～

○安全・安心で快適な保育環境の整備

- ・新しい保育園の建設

○多様な保育ニーズへの対応

- ・0歳児保育や、1・2歳児保育の充実
- ・一時保育や、短期保育等の実施
- ・早朝、延長保育や、土曜日通常保育の実施
- ・発達支援(障がい児)保育の実施
- ・就学前の、教育・保育の連携強化
- ・地域との交流事業(出前保育、園外活動)
- ・郷土学習の推進
- ・適切な食事の取り方や食習慣の指導

子育て世代も含めた地域住民が
いつでも利用できる安全な施設
★土・日曜日の施設開放



『子育てガイドブック』による
子育てに関する情報の提供

※母子手帳の交付時に配布

ファミリー・サポート：育児の援助を受けたい会員と育児の援助を行いたい会員により構成された地域における相互援助活動

3-B みんな達者で にこにこ元気プロジェクト

健康づくり、地域保健体制の充実

①健康増進、保健事業の推進

- ・個々のライフスタイルに応じた指導助言
- ・ITを活用した、健康に関する正しい知識の普及
- ・食育教育の推進

②生活習慣病の予防・改善指導

- ・健康状態のチェック（特定健診、ガン検診、その他各種健診）
- ・特定健診結果等を基にした保健指導や相談事業
- ・保健師の訪問による、きめ細やかな指導

地域医療の充実 【朝日町立病院】

①予防～治療～在宅支援までの一貫した医療サービスの提供

- ・糖尿病教室の開催 ・訪問診療 ・訪問看護
- ・訪問リハビリ ・通所リハビリ
- ・居宅介護支援（ケアプラン作成） ・遠隔在宅健康管理

②救急指定病院

- ・救急患者24時間受け入れ

③健診の実施

- ・特定健診 ・ガン検診 ほか

連携

■町内の医療機関

連携

■二次、三次医療機関

- ・県立河北病院
- ・県立中央病院ほか

介護支援の充実 【地域包括支援センター】

①介護予防事業の推進

- ・高齢者が要介護状態になることを防ぎ、発生を予防
- ・要介護状態になっても悪化しないよう維持、改善

②総合相談・支援

- ・総合相談窓口の設置
- ・戸別訪問等による実態の把握と、見守り支援
- ・関係機関とのネットワーク構築
- ・困難を抱えた高齢者への専門的な支援

生涯現役のまち

▼心と身体の健康づくり推進

— まめで達者に暮らせる環境整備 —

①社会活動の参加と、能力を活用する場づくり

- ・「地域の先生」としての活動（知識・経験・技術の伝承）
- ・障がい者等の社会参加の推進
- ・生活支援サービスの充実



②ノーマライゼーション運動の推進

- ・ユニバーサルデザインの普及等、福祉教育の充実

③多様な学び、生涯スポーツの推進

- ・芸術・文化活動や趣味を活かした生きがいづくり
- ・地区レクリエーション大会
- ・スポーツ活動

地域における支え合い

○高齢者自立生活支援システムの整備

- ・介護予防元気サポーター、認知症サポーターの養成
- ・ボランティア活動や、NPOの育成支援
- ・地域見守り体制の整備・声かけ運動の推進

居宅ケアサービスの取り組み

- ・訪問介護、入浴、看護、リハビリ
- ・福祉用具の貸与、購入助成
- ・住宅改修費の助成



- ・通所介護（デイサービス）
- ・通所リハビリ（デイケア）
- ・短期入所生活介護（ショートステイ）
- ・ " " 療養介護(")

連携

■認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

施設サービス

- 介護老人福祉施設「ふれあい荘」（特別養護老人ホーム）
- 養護老人ホーム「明鏡荘」

- 介護老人保健施設（老人保健施設）
- 介護療養型医療施設



◇びんしゃん教室



◇毎日骨タサロン



◇元気クラブ

●推進機関等との連携

社会福祉協議会

シルバー人材センター

高齢者生産活動センター

- ・長寿クラブ、高齢者大学
- ・民生児童委員、食生活改善推進委員

ノーマライゼーション：障がいの有無や年齢等にかかわらず、誰もが社会の中で普通に生活し、活動することが本来あるべき姿と、いう考え方
ユニバーサルデザイン：文化・言語の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）

3-C 安らぎのある自然に優しい まちづくりプロジェクト

快適な生活環境

詩情溢れる、ふるさと景観の構築

- ①自然資源の保全・保護
- ・棚田や、里山景観の整備と活用
 - ・豊かな森づくり推進 (みどり交付金事業)
 - ・花いっぱいのもちづくり



自然に親しみ、伝統文化を育むまちづくり

- ①地域伝統芸能等の保存継承
- ②賑わいあるまちづくり (再掲)
- ・「蔵」活用の交流サロン整備
 - ・最上川フットパスの整備

循環型地域社会の構築

①環境に優しいまちづくりの推進

- ・3R運動の推進 (減量化、再使用化、再資源化)

菜の花プロジェクト

- ・菜の花の栽培
- ・食用油や廃油の再資源化運動推進



情報通信環境の整備

- ①光ファイバーを活用した取り組み
- ・地域公共ネットワークを基盤とした情報化推進
 - ・町のホームページを拠点とした情報提供や、町民交流ネットワークシステムの整備
 - ・地上デジタル放送の難視聴対策や、携帯電話不感地帯の解消



安全で便利な交通環境の整備

- ①町民の足確保対策
- ・学生への通学支援(再掲)
 - ・山形直行バスの運行



- ②道路網の整備
- ・国道287号(宮宿～白鷹)の道路改良の促進
 - ・県道、町道の改良整備
 - ・主要な通学路の安全確保



快適で多様な住宅環境の整備

- ①住宅団地の整備
- ・定住対策促進住宅団地の整備
 - ・旧大谷小跡地住宅団地の造成

- ③生活排水処理施設の整備
- ・合併処理浄化槽の整備推進

- ②若者や高齢者の住みやすい住宅の整備
- ・地域優良賃貸住宅の建設

- ④克雪対策の推進
- ・除排雪体系の確立
 - ・地域との連携による消流雪溝改修
 - ・耐震型住宅や克雪対策のリフォーム資金融資

安全安心なまち



— 災害のないまちづくり —

①災害に備える基盤整備や、地域防災体制の確立

- ・防災体制の強化、消防設備・施設整備の充実
- ・集落における自主防災組織の整備
- ・災害時要援護者に対する支援
- ・防災意識の高揚、防災マップの作成や、全町あげた防災訓練の実施
- ・地域見守りや安否確認システムの整備
- ・防災情報提供システムの活用推進
- ・防犯、交通安全の推進
- ・公共施設、及び橋梁等の安全点検
- ・木造住宅の一次耐震診断の実施

②地域ぐるみで支える高齢者等への総合的克雪対策事業

- ・雪降ろし、雪はきへの支援
- ・地域活動による生活道路除排雪への支援



「第5次朝日町総合発展計画」基本計画（プロジェクト）推進指標

地域力の向上 信頼とつながりにより地域の力をつくる

プロジェクト名	目標指標	現状（18年度）	3年後（22年度）
1-A みんなが主役で 愛する地域をつくるプロジェクト	あさひ未来塾活動から発生したNPO等の活動団体数	0団体	2団体
1-A みんなが主役で 愛する地域をつくるプロジェクト	「地域づくり計画」策定地区数	16地区	30地区
1-B みんなで育てる 子ども成長プロジェクト	授業が「わかりやすい」と答える生徒の割合	75%	85%
	家庭学習をしっかりとやっている生徒の割合	88%	95%
1-B みんなで育てる 子ども成長プロジェクト	子育てや家庭教育を学習・実践するグループや団体の数	2団体	3団体

産業力の向上 安定した暮らしができる産業をつくる

プロジェクト名	目標指標	現状（18年度）	3年後（22年度）
2-A こだわりのある 農業をつくるプロジェクト	戦略品種「シナノスイート」「秋陽」の作付面積	40ha	60ha
2-A こだわりのある 農業をつくるプロジェクト	新規就農者の数	15人（H15～累計）	30人（H15～累計）
2-B みんなが活躍する ものづくりプロジェクト	新商品の発表数	53品	100品
2-B みんなが活躍する ものづくりプロジェクト	新規起業の数（H17以降の累計）	6人（19年度）	10人
2-C みんな温か 交流・観光プロジェクト	交流・観光に関する活動グループや団体の数	2団体	4団体
2-C みんな温か 交流・観光プロジェクト	ホームページ観光情報コーナーへのアクセス件数	21,469件	40,000件

定住力の向上 安心と魅力のある定住環境をつくる

プロジェクト名	目標指標	現状（18年度）	3年後（22年度）
3-A みんなで支え合う 子どもいっぱいプロジェクト	12歳児（中学1年生）の一人当たり平均虫歯本数	0.97本	0.7本
3-A みんなで支え合う 子どもいっぱいプロジェクト	子育て応援サポーター数	0人	55人
3-B みんな達者で にこにこ元気プロジェクト	特定健康診査の受診率	46%	60%
3-B みんな達者で にこにこ元気プロジェクト	要支援・要介護1の認定者数（介護予防後）	208人	140人
3-C 安らぎのある自然に優しい まちづくりプロジェクト	町営賃貸住宅の入居可能戸数	20戸	80戸
3-C 安らぎのある自然に優しい まちづくりプロジェクト	「民家等の雪対策事業」に取り組んでいる区の数	36区	45区

「第5次朝日町総合発展計画」策定経過

平成
19年

5月17日	役場内に「策定幹事会」(12名)、「ワーキングチーム」(29名)を設置
5月24日	第1回 企画委員会を開催(委員10名)
5月25日	第1回 策定委員会、各部会の開催(委員28名)
6月6日	策定幹事会、ワーキングチームによる合同会議
6月13日~15日	第2回 策定委員会(部会) 部会毎による検討
6月27日~28日	第3回 策定委員会(部会) 部会毎による検討(企画委員からの基調講話)
7月11日~12日	第4回 策定委員会(部会) 部会毎による検討(企画委員からの基調講話)
7月18日	第2回 企画委員会 「現状と課題」について討議
7月20日~25日	第5回 策定委員会各部会
8月22日~12日	第6~7回 策定委員会各部会
9月28日	第3回 企画委員会 「総合発展計画に盛り込む内容」の討議
10月23日	第2回 策定委員会(合同部会) 施策にあたっての全体検討
12月10日	朝日町議会全員協議会 「計画の骨子(案)」について説明
平成 20年	
2月6日	第4回 企画委員会 「基本構想・基本計画(案)」の検討
2月13日	第3回 策定委員会(合同部会) 「基本構想・基本計画(案)」の検討
2月21日	朝日町議会全員協議会 「基本構想・基本計画(案)」について説明
2月26日	朝日町振興対策審議会 「第5次朝日町総合発展計画」の諮問・答申
3月13日	朝日町議会3月定例会 「第5次朝日町総合発展計画」の議決・承認



企画委員会の様子

「第5次朝日町総合発展計画」委員名簿

企画委員会

座長	高野 公男	東北芸術工科大学/大学院教授
副座長	細野 武司	(株) 荘銀総合研究所/理事長
委員	奥村 聡子	山形県商工労働観光部/観光振興課 観光推進員
委員	小澤 亙	山形大学/農学部【生物環境学科】教授
委員	熊坂 聡	山形短期大学/副学科長【人間福祉学科】教授
委員	小林 道和	朝日町校長会長(宮宿小学校校長)
委員	柴田 七郎兵衛	朝日町消防団団長 船橋商店店主
委員	清野 義弘	(商工会副会長) (株) マツムラ山形工場専務取締役
委員	出口 毅	山形大学/地域教育文化学部【地域教育学科】准教授
委員	松村 茂	東北芸術工科大学/【メディア・コンテンツデザイン学科】教授

計画策定委員会

Ⅰ 人づくり【教育・文化部門】		Ⅱ 暮らしをつくる【産業部門】		Ⅲ よいまちをつくる【生活環境・福祉・行政部門】	
◎小林 道和	校長会長(宮小校長)	◎清野 義弘	(商工会副会長) (株) マツムラ山形工場専務取締役	◎柴田 七郎兵衛	消防団団長(船橋商店)
○宮本 千代子	主婦(元保育士)	○白田 和好	松谷屋商店店主	○安藤 光永	主婦(元教諭)
小林 重敏	法務技官	葦沢 守	アサヒニクニ(株)社長	長岡 満智子	民生児童委員
登坂 ひかる	主婦(民生児童委員)	井澤 壽一	果樹組合連絡協議会長	五十嵐 平一郎	身障者相談員
今井 一彦	今井電気(有)社長	高橋 道子	主婦(農業)	杉沼 康彦	山形銀行宮宿支店長
成原 早弓利	会社員(女性井戸端代表)	鈴木 久美子	近江屋商店	長岡 浩之	ふれあい荘
田中 靖士	教諭(左沢小)	志藤 宜徳	農業	鈴木 智美	主婦
遠藤 直裕	農業	成原 哲也	ASAHI自然観支配人	鈴木 香織	保育士
田中 敦子	公募委員(日本画家、塾講師)	板垣 敬子	公募委員(美術家)	川勝 節子	公募委員(デザイナー)

(3部会×9名=27名)

「第5次朝日町総合発展計画」委員名簿

策定幹事会

幹事長	高橋 康則	副町長
副幹事長	長岡 重利	教育長

幹事

Ⅰ 人づくり【教育・文化部門】		Ⅱ 暮らしをつくる【産業部門】		Ⅲ よいまちをつくる【生活環境・福祉・行政部門】	
◎成原 孝一	税務町民課長	◎堀 幸雄	産業振興課長	◎最上 俊一郎	総務課長
○若月 加代子	教育文化課長	○佐藤 伸寛	出納室長	○熊谷 貞則	健康福祉課長
富樫 清志	政策推進課長	小川 澄夫	議会事務局長	鈴木 清	建設水道課長
				安藤 一夫	町立病院事務長

ワーキングチーム

◎長岡 典己	教育文化課 課長補佐	◎長岡 信之	産業振興課 課長補佐	◎阿部 則雄	建設水道課 課長補佐
○橋間 友則	教育文化課 課長補佐	○白田 久寿	産業振興課 課長補佐	○川口 幸男	総務課 課長補佐
大井 恵子	わかば保育園 園長	三浦 浩一	産業振興課主査 農政係長	阿部 正文	総務課 財政係長
鈴木 勝	建設水道課 主任	高橋 さだ子	産業振興課 商工観光係長	阿部 正樹	税務町民課 主任
岡崎 国宏	教育文化課 主任	藤澤 美子	健康福祉課 主任	熊谷 三枝子	ふたば保育園 主任
佐竹 秀文	総務課 主事	阿部 祐子	税務町民課 主事	海藤 繁幸	建設水道課 技師
伊藤 由佳	出納室 主事	長岡 昭博	建設水道課 主事	太田 律	健康福祉課 保健師
☆松田 勝美	政策推進課 定住対策係長	☆渡辺 政一	政策推進課 課長補佐	☆千野 武雄	政策推進課 戦略推進係長
早坂 健一	政策推進課 主任	鈴木 滝子	政策推進課 主任	佐久間 淳	政策推進課 主事

(◎:リーダー、○:サブリーダー、☆:事務局)

事務局 担当	政策推進課 主幹	菅井 和広
	政策推進課 課長補佐	清野 直治

※委嘱時の職名となっています。

発行

山形県 朝日町 〒990-1442 山形県西村山郡朝日町大字宮宿1115 TEL/0237-67-2112 FAX/0237-67-2117
挿絵/あとリエマサト 板垣 敬子・田中 敦子
編集/朝日町政策推進課 E-mail:seisaku@town.asahi.yamagata.jp 印刷/株 若月印刷